

きらめき

～光の子として歩みなさい～

(聖書 エフェソの信徒への手紙5章8節)

NO.14 学校法人岩手キリスト教学園機関誌
Dec.2025

特集 子育て支援

人、地域とつながる憩いの場所 認定こども園ひかりの子

聖光なないろキッチン 認定こども園めぐみ遠野聖光こども園

創立10周年 認定こども園宮古ひかり



「出会い」から見えるもの

岩手キリスト教学園 代表業務執行理事
認定こども園ひかりの子 園長
日本キリスト教団日詰教会 牧師



インヘ
張 仁恵

わたしは、日本キリスト教団日詰教会と認定こども園ひかりの子に赴任して10年目を過ごしています。10年という年月を振り返り、胸いっぱいに込み上げるものは、やはり「出会い」ではないかと思えます。聖書にザアカイの物語（ルカ19：1～10）があります。ザアカイは救い主イエス・キリストに「出会う」ことによつて大きく変わるのですが、その姿から「出会い」の素晴らしさを強く感じます。同じように、救い主イエス・キリストに出会い、日詰の地に導かれ、日詰教会の信徒との出会い、ひかりの子・アガベ保育園の教職員との出会い、大好きな子どもたちとの出会い、共に成長させていた

だく保護者との出会い、人の温かさに満ちている地域と地域の方との出会いにより、育てられた10年間だったと思い、神さまに感謝、皆さまに感謝でいっぱいです。

それでこの「出会い」を通して見たものを皆さまと分かち合いたいと思います。一つ目は「子どもとの出会い」です。0歳児の子どもたちは人見知りや激しく、中には大泣きする子どももいます。保育者に抱っこされ、おんぶされながら誕生会に参加します。ある時、会が終わり部屋に戻ろうと歩み出すと、一人の女の子が私の人差し指をしっかりと握り、私が導くままについてくるのです。その姿を見て子どもたちのための責任のある仕事に携わっているのだ、と自覚を新たにすることがありました。

聖書には「若者を歩むべき道の初めに教育せよ。年老いてもそこからそれることがないであろう。」（箴言22：6）と書かれています。つまり私たちが行うキリスト教保育・教育は子どもの人生の基礎を培う大切な働きです。私たちが子ども一人ひとりの個性や気質、家庭の方針や文化を理解し接することで、子どもは安心感を覚え、信頼を抱きます。このプロセスの中で、私たちも共に育てられたと思っています。子どもと共に生きている一瞬一瞬の出会いに感謝し「子どもの今」を心から感じ、喜び、悲しみ、共に働き、立ち止まり、悩み、祈りながらこれからもキリスト教保育・教育を共に創り上げていきたいと願っています。

二つ目は「保護者との出会い」です。赴任して間もなくの時、私たちの園に三人のお子さんを入れてくださったあるお父様との出会いが印象深く心に残っています。そのお父様が「この園は理念と教育・保育方針がしっかりとっていて、どのような子どもを育てたいのかが伝わり良い園だと思います」と声をかけてくださったのです。その時の感激を今も覚えています。ご自身も教育現場におられることで「ひかりの子さん、頑張ってください。何があっても、持っている教育方針を曲げずに頑張ってください」と励ましてくださいました。お子さんは三人とも卒園しましたが、毎年、先生たちのためにお菓子を持ってきてくださる時の励ましの言葉に、どれだけ助けられたことか、本当に感謝しありません。

このような出会いに支えられて歩んできましたが、急激な少子化により子育ての孤立化が進み、誰にも相談できずにいる保護者、子育てに対するストレスや負担感が大きくなっている保護者が増えているのも現実です。こうした状況を踏まえ、私たちの園ならではの独自性のある子育て世代、保護者のための支援を「子育て支援カフェ」として2016年から行っています。「出会い」を通していただいたものを少しでも還元できる働きを心がけていきますので、ぜひ信頼し、関心をもつて見守っていただければ嬉しいです。

最後に三つ目は「地域と地域の方との出会い」です。私たちの園は岩手県において3番目に古い歴史をもち、紫波町で初めて幼児教育に取り組んだ園です。開設から今年で106年目になります。認定こども園ひかりの子は、この地域の大切な構成メンバーであり、この地域に守られ、この地域の方々に支えられて、今があるのです。地域に責任を持ち、地域に貢献する役割を担う大切さを感じています。これからも地域に開かれた園として子育て世代の安心の場、親子の居場所であることを発信しながら、認定こども園ひかりの子・アガベ保育園を中心とした新たな子育て共同体の形成を模索し、この地域に貢献していききたいと思っています。ぜひ、これからも子どもを真ん中にし、保護者と教職員、地域が良きパートナーとなり、子どもの育ちを支えていきたいです。

神の愛、クリスマスの喜びの知らせが、世界の隅々まで届きますように。

特集 子育て支援

人とつながる 地域とつながる 憩いの場所

認定こども園ひかりの子
保育教諭 伊藤裕紀子

一人ひとりに寄り添う意義

私たち、認定こども園ひかりの子の保育方針の一つに「一人一人を大切に保育」があります。個々の発達段階を丁寧に見つめふさわしい援助を行うこと、また自分が愛され受け入れられる経験が心の安定と主体性が育まれていくことをねらいとし、心も身体も様々に動かし成長している子どもたちの『今』に寄り添い必要な援助を考え、保護者の方と共有しながら日々向き合っています。それは、私たちが地域にある園として取り組む子育て支援にも同様のことと言えます。地域の中で大切な命が誕生し、育まれる子ども一人ひとりの、そして子育てされている保護者一人ひとりの『今』に寄り添い、「わたしはわたしのままでいい」と子どもも保護者もありのままの自分を受け入れ、自己肯定感を高められるような居場所、安心して育ちあつていく居場所を作っていく大切な役割を担っています。

ひかりの子の 子育て支援の歩み

ひかりの子の子育て支援事業は、旧日詰幼稚園時代から未就園児サークル「おひさま」として主に満2歳以上を対象とした支援を重ねてきました。2010年度、認定こども園としての歩みを始めたことに伴い、改めて地域にある子育て支援の在り方を検討し、2015年度以降は、満2歳児以上を対象とした「おひさま」、0歳児を対象とした「ベビーおひさま」と対象年齢ごとに開催してい

ましたが、それぞれのサークルを一体化し、2016年度より0歳児から5歳児の就学前のすべての親子を対象とした「子育て支援カフェ」を開設しました。

保護者のニーズの変化

「子育て支援カフェ」として活動してから10年目を迎えますが、これまでイベント内容はもちろん、開催時間や曜日、開催日数など参加者の利用目的や利用状況を把握

し、利用者のニーズを分析しながら開催の在り方を検討してきました。2020年度以降、新型コロナウイルスの影響で活動の自粛や制限が生じ、子育て世帯を取り巻く社会状況の変化やライフスタイルの多様化、特に女性の就労率が高まってきたことで、子育て支援イベントに参加する子どもの年齢や参加人数など状況が一変しました。

2016年度から数年間は子育て支援イベントに参加する子どもの年齢が主に2歳児から4歳児の親子であったのが、コロナ禍以降は0歳児から1歳児の親子が主流となり、イベント内容も見直しを図りました。また、参加者の利用状況の変化とともに、子育て支援の場が子ども同士の交流や保護者同士の交流だけを求めている場所ではなく、感じてきているのではなか、と感じるようになりました。

イベントを開催しながら子育て支援のニーズに大きな変化が生じていることを目の当たりにしたので、子育てにどんな思いを抱いているのか、子育て支援に対してどんな場所を求めているのか、一人ひとりの「わたしの声」を聴き、知るために子育て支援に関する調査を実施しました。

親子で楽しめる場とは

アンケートからは、コロナ禍で様々な制限がかかり人とのかわりまでも制限されてきた中で、より人とのつながりを求める傾向がうかがえました。「子どもと一緒に気軽に出かけられる場所がある」と「参加したいが働いていると平日参加が難しい」「親もひとりの時間をもちたい」といった率直な思いも伝わってきました。

身近に、そして気軽に親子で遊べる場所とはどんな場所か、就労していても親子で楽しめるイベントは何か、保護者が抱える心の負担を少しでも軽減したいなど、子育て支援に求めるニーズに応えていくために子育て支援カフェができることを試行錯誤し、私たちができる最善の子育て支援を考えながら活動を行ってきました。



カフェDAY 食後の絵本タイム

わたしたちの「子育て支援カフェ」

おやこのじかん

親子でのふれあいを目的とし、講師を招いての『ベビーマッサージ』や『パパママとあそぼう!』、アガベ保育園の子どもたちとの遊びやランチタイムが体験できる『みんなのひろば』などがあります。お子さまに触れながら愛しく心地よいひとときを過ごし、お子さまも保護者の方も毎回素敵な笑顔であふれています。



わたしのじかん

保護者の方のリフレッシュや自分の時間作りを目的とし、心と身体をほぐす『ヨガ』や手作りおもちゃなど様々な製作を楽しむワークショップ、お子さまをスタッフが預かり自分の趣味や普段できない仕事としての過ごし方。『もくもくの日』などがあります。ワークショップでは、製作を楽しみながらも子どもの成長のこと、食事のこと、子育ての悩み、仕事との両立のことなどについて、「私も同じだよ!悩むよね!」と保護者同士やスタッフと共有したり、経験をアドバイスし合ったり、子育ての情報を得ながらみんなで分かち合う時間となっています。ワークショップそのものを楽しむだけでなく、気軽にお話したり、



わたしのじかん〜ヨガでリフレッシュ



おやこでアート〜オリジナル傘作り

ひかりの子では地域の子育て・子育て支援として子どもの遊び場、保護者同士のコミュニケーションの場、保護者のリフレッシュの場など、子育てにおける様々なニーズに応え、保護者が子育てに孤立することなく安心して子育てできる環境を提供していくことを目的として子育て支援活動を実施しています。そこには多種多様な活動や体験を提供し、就労の有無にかかわらず地域における子育て中の保護者が子どもに関わる喜びを味わい、楽しんで子育てと向き合えるように、また、子育ての様々な悩みを分かち合い、総合的な子育ての情報を提供しながら安心して子育てができるよう支援していくことをねらいとしています。

現在、平日は毎週金曜日、9時半から13時まで(※イベント内容によって時間が異なります)日詰教会やひかりの子、アガベ保育園を会場に開催しています。

イベント内容としては、大きく3つあります。



おやこでトートバック作り

親子が安心して食事ができる場所、また保護者の方だけでゆっくり食事の時間を過ごせる場所を目的とし、栄養満点なひかりの子の給食やからだに優しい手作りのスイーツを味わうことができます。「子どもが泣いてしまったらどうしよう」とまわりを気にしながら親子で食事をしていたので安心して食事ができる」「栄養バランスが良くて美味しい給食を親子で食べられることが嬉しい！」「毎回スイーツが絶品！」「子どもを見てもらっているの自分もゆっくり食事ができる」などと好評をいただいています。

また、特別開催としては毎月1回、園の調理師が作る手作りの夕食を家族で味わえる『夜カフェ』や、土曜日でも『おやこのじかん』や『わたしのじかん』を楽しめる土曜開催イベントも行っています。特に『夜カフェ』は、毎回いろいろなメニューが楽しめることを喜んでくださり、お子さまのお迎え帰りに夕食を家族みなさんで味わってくださっています。在園児はもちろん、町外の方の利用



お話ししながらゆっくりカフェタイム

また、子どもの豊かな育ちのためには、地域全体で子育てをまんなかにして考え、支えていく『地域力』を高めていく必要があると感じます。さまざまな支援者や支援団体が、それぞれの独自性を活かして、つながり合いながら、子育てに関する情報をシェアし、必要な親子に的確に提供できる態勢が求められています。妊娠期からの切れ目ないサポート環境の充実を大きなビジョンとして共有し実現していくためにも、行政や近隣地域へ積極的に発信しながら、ネットワークを構築していくことが課題と言えます。

者も増えてきて、嬉しく思っています。それぞれのイベントには小さな願いがあります。「我が子が愛おしい」「子育てで大変でも楽しい！」「子どもも保護者も自然に笑顔がこぼれるひとときであってほしいのです。『幸せ』と思える瞬間を味わうことができるように、心がほっと温かさで包まれるように」という願いをもちながら子育て支援カフェを行っています。



クリスマスケーキ作り

子育て世帯に向けたある調査で「子育ての悩みを相談できる人がいますか？」という問いに対し、いると答えた方は43・8%とここ10年で半減したというデータがあります。ひとりで育児せざるを得ない、頼れる人がいない場所での子育てしているなど、子育てにおける様々な負の背景がある中で子育て支援の場に求められていることは「人とのつながり」ではないか



「夜カフェ」でゆっくり過ごす親子

求められる子育て支援とは

と思います。子育て支援カフェに参加された保護者の方から「だれも知らない場所での育児が怖かった。近くに自分の話を聞いてもらえる場所があつて子どもにも私にも良かった」という声を聞きました。身近に頼れる居場所は、人とのつながりを実感し、子育ての励みや安心感が育まれていく場として必要な役割を果たしていくと考えます。

2026年春新施設オープン わたしたちが目指すもの

2026年度、わたしたちは「子育て支援施設」を設立し、子育て支援の場とカフェを一体化した子育て支援事業を始めます。アガベ保育園に隣接する一戸建て住宅をリノベーションし、子育て支援施設として開業する予定です。様々な方々に支えられ2025年3月24日、学園関係者、建築業者、日詰教会の方々が出席し、起工式を行いました。これまでの子育て支援活動の歩みに感謝し、これから始まる工事が無事に進むよう神さまに祈りを捧げました。今後は、2026年1月に竣工式、その後、プレオープンイベントを経て、2026年度春よりオープンします。

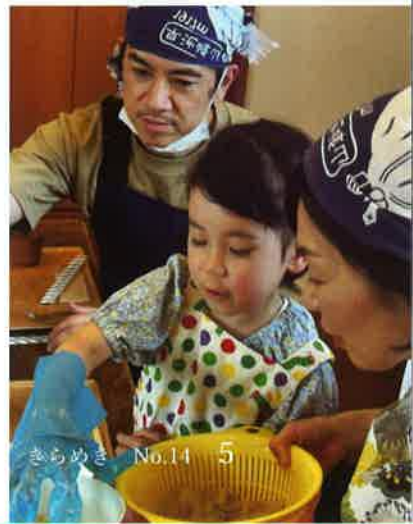
子育て支援施設のコンセプトとして「親子が安心して学べて楽しめる食事ができる」「親子が気負わずにのんびりリラックスできる」「親も子も子育てに必要な情報が得られ、体験できる」「ひとりでも親子でもゆったり自分（わたし）の時間や食事を楽しめる心地よい居場所」「まちの中の小さな心地よい居場所」を掲げました。親子で過ごすかけがえのない時間を過ごせる場所、子育てに困ったとき、不安になったとき、ふと立ち寄れる場所、親も子もありのままを受け入れてもらえる場所、子どもも親も笑顔になれる場所、ほっと一息してまた子育てに向き合える場所、カフェを通して地域の方とつながる場所。その一つひとつが子育て支援施設の場所として実現していくことを目指し、紫波町の中で地域の方々の憩いの場所となるように歩んでいきたいと思ひます。



親子の心地よい時間（右）



子育て支援施設起工式であいさつする園長の張牧師



おやこでクッキング～冷麺作り（右）



岩手キリスト教学園の各施設は、未就園児親子を対象にした子育て支援活動や地域との交流事業にも力を入れています。幼児施設を核に、地域とのつながりを深め、地域の一員としての役割を担っていければと願っています。

2025 げんきっこまつり 青山幼稚園

子育て支援事業の一環として「2025青山幼稚園げんきっこまつり」が8月30日、盛岡市青山3丁目の同園舎で開かれました。在園児をはじめ、地域の未就園児親子らが参加。手作りおもちゃの買い物や工作、会食などを家族で楽しみ、交流しました。

屋台には紙やビーズなどを使って本物そっくりに作った、りんごあめ、チョコバナナ、お面、アクセサリなど思わず手を伸ばしたくなるおもちゃがずらり。子どもたちは、どれにしようかと迷いながら、お気に入りを選んでいました。おもちゃの中には園児たちが作った「寿司セット」「焼きそば」なども並び祭りを盛り上げました。家から持ち寄ったおもちゃを交換できるコーナーや、その



特集 子育て支援

9月12日に遠野市民センターで開かれた「聖光なないろキッチン」

認定こども園めぐみ
遠野聖光こども園発

地域に開かれた「子ども食堂」～聖光なないろキッチン



認定こども園めぐみ遠野聖光こども園は5月から子ども食堂「聖光なないろキッチン」に取り組んでいます。在園児親子をはじめ、遠野小学校、遠野北小学校の親子に参加を呼びかけ夕食を提供。園のホールや遠野市民センターを会場に、11月まで5回開催しました。12月からは園がお世話になっている自治会にもチラシを配り、地域の方々にも参加を呼びかけていきます。少子高齢化が進む中、子育て支援や世代を超えた交流の輪を広げていきたいと願っています。

「子ども食堂」は当初、貧困家庭の支援活動として注目され全国に広がりました。しかし、近年は、世代を超え誰もが安心して食事を楽しみ、交流できる地域の居場所として活用されています。9月12日夕方、遠野市民センターで開かれた「聖光なないろキッチン」には親子、スタッフ合わせて約50人が参加。にぎやかにおしゃべりを楽しみながら、ゆつくりと夕食を味わいました。

この日のメニューはご飯、鶏の唐揚げ、付け合わせのレタスとミニトマト。同園の職員有志に加え高校生2人を含む5人の市民ボランティアが厨房に入り調理や盛り付けを担当しました。米や野菜といった食材は、子ども食堂に取り組む団体で組織する「子どもの居場所ネットワークいわて」や遠野市社会福祉協議会などからも提供していただいています。カラリと揚げた唐揚げは、子どもにも大人にも好評でした。「カレーライス」「栗ご飯」など回を重ねるたびに、メニューの幅も広がっています。

集い、食事ができる「聖光なないろキッチン」は、子どもにとっても、親にとっても再会の場となり、一緒に遊んだり、情報交換したりするきっかけになっているそうです。

この日、園児と小学生の子ども3人、夫婦の家族5人で参加した保護者は「準備してもらった食事は、やはりおいしいです。ゆつくり家族で夕食の時間が共有できました」「親子で参加できるので、よその家のお子さんの成長もみられてうれしい。子どもたちも楽しみにしています」と話していました。

聖光なないろキッチンはおおむね月1回のペースで開催し、次年度も続ける予定。菊池千咲園長は「地域の誰もが安心して食事が楽しめる居場所に育てていきたい」と意欲を燃やしています。





創立10周年の記念パネルを囲む宮古ひかりの園児たち

3歳未満児の保育需要の高まりを受け、2022年4月には宮古ひかりの連携施設として家庭的保育事業ぶどうのき（定員5人）がゆかりのある山口団地内に開所しました。一人ひとりの育ちに丁寧な寄り添う保育を実践しています。宮古ひかりとぶどうのきの交流を通して教職員同士が高め合い、より今日的な課題に対応できる保育を生み出していけるよう模索を続けています。

宮古地区に限ったことではありませんが、沿岸地域の少子高齢化や若者の流出は著しく、地域ぐるみで子育てを支援し幼児から小中

高生まで切れ目なく子どもたちの育ちを支える環境が求められています。その中で宮古ひかりも果たすべき役割を担い、より質の高い保育を目指していきます。子どもの「主体的な遊び」を通して、自己肯定感や非認知能力を高めていけるよう時間をかけて準備してきた園庭の本格整備にも着手する予定です。

宮古の地にともされた「キリスト教保育」の灯を、たやすことなく日々の実践を通して、子どもたちや地域の豊かな成長につなげていけるよう、さらに前へ歩を進めます。

高生まで切れ目なく子どもたちの育ちを支える環境が求められています。その中で宮古ひかりも果たすべき役割を担い、より質の高い保育を目指していきます。子どもの「主体的な遊び」を通して、自己肯定感や非認知能力を高めていけるよう時間をかけて準備してきた園庭の本格整備にも着手する予定です。

限られた予算やスペースを考え、泥だんごが作れる土は、たらいに入れて準備。泥で作ったケーキに花びらを飾り付けたり、新たな虫探しスポットが生まれ、園児の遊びにも少しずつ変化や広がり生まれ、じっくり遊び込む姿も増えてきました。教職員からも「見ていただけの場所が遊びの一部になった」「先生を目指していた頃の熱量を思い出しわくわくした」など前向きな感想が聞かれています。

「園庭について真剣に考える良いきっかけになった。やってみれば、できることがたくさんある。まだまだ課題はあるが来シーズンさらに発展させていければ」と米内小百合主幹保育教諭。「子どもの『きらり☆』を引き出そうと取り組んだ結果、職員の『きらり☆』を引き出すことにもつながった」と手応えを感じています。



認定こども園宮古ひかり園舎

「きらり☆」を引き出す夢の園庭を 私幼連東北地区大会で発表 のぞみこども園

北上市で10月10日、11日に開かれた全日本私立幼稚園連合会第39回東北地区教員研修大会（全日本私立幼稚園幼児教育研究機構などの主催）の第9分科会ポスター発表部門に、のぞみこども園が参加しました。第9分科会のテーマは「私達のきらり☆～園の質向上を目指して～」のぞみこども園は「子どもの『きらり☆』を引き出す環境～夢の園庭を目指して～」と題し、園庭改造に取り組んだ様子を発表しました。

のぞみこども園の園庭は、きれいに整備されている半面、「遊び」の広がりを見ると課題もあり、保育者からは「泥団子を作る土がほしい」「バラの花はきれいだけれど、トゲがあって危ない」「ごっこ遊びや色水遊びに使える草花がほしい」といった声があがっていました。これまで、既存の環境は変えられないと、あきらめてしまっていたましたが、ポスター発表をきっかけに、保育者の声を形にする第一歩を踏み出しました。

園内研修でグループワークに取り組み、子どもが遊び込める環境や主体的な遊びについて意見交換。理想とする園庭を目指し優先的にできることを選び出しました。

花壇は植栽を見直し、大きなバラは取り除いて「ごっこ遊び」の素材にできるアサガオなどの植物に変更。農園から雑草も移植しました。種まきや苗植えには園児が取り組み、で



宮古市の認定こども園宮古ひかり（森分和基園長）が創立10周年を迎えました。11月4日、同園のホールで記念礼拝が行われ、宮古ひかりとぶどうのきの園児、宮古教会の教会員が、神さまに感謝しました。

お祈りをささげ、讃美歌を歌ったあと、聖書「マルコによる福音書10章13～16節」を朗読。森分園長は、イエスさまが子どもを愛し、大切にし、祝福してください、たことを力を込めて伝えました。スライドで、前身のひかり幼稚園の園舎や宮古ひかりの新しい園舎が建てられていった様子も振り返り、10年間の歩みを神さまがしっかり支えてくださったことを胸に刻みました。

認定こども園宮古ひかりは2015年11月2日、ひかり幼稚園の歴史を引き継いで開園しました。現在、園児107人が通園しています。ひかり幼稚園が開園したのは1968年。宮古教会（1909年創立）の二つ目の附属幼稚園として、同市の山口団地でキリスト教に基づく幼児教育に取り組んできました。1993年から学校法人岩手キリスト教学園に加入しています。

2011年3月11日、東日本大震災が発生。高台にあった、ひかり幼稚園園舎は被災を免れましたが、宮古教会は津波で大きな被害を受けました。三陸海岸にある宮古は津波の常襲地域です。当時の教会は海岸に近く、歴史的にみても100年間に3、4回は浸水するであろう場所に位置していました。このため、宮古教会は大震災で浸水しなかった西町への移転を決意。さらに幼稚園と合同で新しい教会堂、園舎を整備することを決めました。震災後、特に顕著となった共働き世帯の増加などに対応し、幼稚園は認定こども園として新しい歩みを始めました。



ひかり幼稚園の懐かしい園舎



園児と守る礼拝 旧宮古教会



マルコによる福音書10章13～16節

イエスに触れていただくために、人々が子どもたちを連れて来た。弟子たちはこの人々を叱った。しかし、イエスはこれを見て憤り、弟子たちに言われた。「子どもたちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。はっきり言うておく。子どものように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない」。そして、子どもたちを抱き上げ、手を置いて祝福された。

創立10周年記念礼拝で讃美歌を歌う宮古ひかりの園児たち（右）



くりすますのおはなし

1990年 女子パウロ会
文 谷真介
絵 柿本幸造



(有)キリスト教センター善隣館書店
〒020-0025
岩手県盛岡市大沢川原3-2-37
奥羽キリスト教センター1階
TEL/FAX 019-654-1216

岩手キリスト教学園の園に通うお子さんたちは、クリスマスにイエス様のお誕生のお話を聞いたり、クリスマスページェントや聖誕劇（イエス様誕生の劇）をみんなで準備したりして、クリスマスをお祝いした事と思います。園にお子さんを送り出してくださるお家の方々の中には、初めてキリスト教のクリスマスに触れる方もいらっしゃるかもしれません。クリスマスの絵本は、イエス様誕生のお話を扱っているもの、楽しいクリスマスパーティーやサンタがくれるプレゼントの話など、数えきれないほど様々なお話が作られています。この季節、本屋さんには沢山クリスマス絵本が並びますね。

その中でも、今日ご紹介したいのは、柿本幸造さんが絵を描かれた「くりすますのおはなし」(女子パウロ会)です。園でお子さんたちが聞いたクリスマスのお話や劇そのままのクリスマスストーリーが優しい絵と共に描かれています。

柿本幸造さんは、どんくまさんシリーズや小学校1年生の国語で習う「くじらぐも」の絵も描いていますから、どこかで見たことがあるなあ、と感じる方も多い事でしょう。そして、お子さんが卒園して園を離れても、この絵本をみると園でお祝いしたクリスマスを懐かしく思い出すかもしれません。王道のクリスマス絵本をぜひ一冊お手元に置いていただけたら、と思います。

また、柿本さんが絵を描かれたどんくまさんシリーズには「どんくまさんのクリスマス」もあります。大きな体で不器用だけど優しいどんくまさんの姿に、心がほっこりします。この絵本は、大人気で今年は品切れになっていますが、来年は増刷されると出版社の方から伺っています。こちら、ぜひ探してみてください。（浜田陽子）

おすすめクリスマス絵本 年齢別ラインナップ

「おいしい!クリスマス」 0、1、2歳児向き

ひらぎみつえ(ほるぷ出版 935円)

「クリスマスおめでとう」 3歳児向き

ひぐちみちこ(こぐま社 1320円)

「きのいいサンタ」 4歳児向き

さとうわきこ(金の星社 1540円)

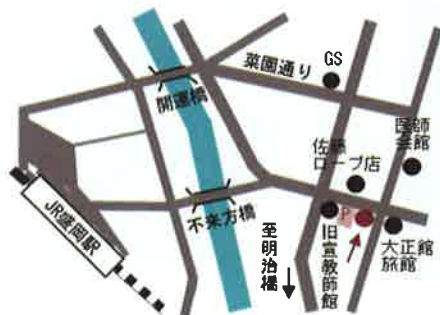
「こりすのクリスマス」 5、6歳児向き

豊福まきこ(BL出版 1650円)

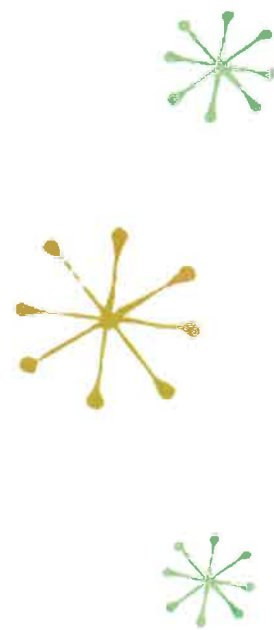
「ミシュカ」 大人向き

文 マリー・コルモン 絵 フォードル・ロジャンコフスキー

訳 みつじまこ(新教出版社 1430円)



1週間に一度でも絵本の読み聞かせタイムを持ってみませんか。子どもも大人も、ほっこり優しい気持ちになれます。



伝えたい本の力 ~冬編~

善隣館書店の書店員の皆さんに、この冬、おすすめの絵本を紹介してもらいました。絵本に取り上げられる物語は、あまり長くはありません。けれども、一つひとつの言葉、絵に込められた作者や編集者の思いは厚く、だからこそ、子どもにも大人にも訴えかける力があるのだと思います。

クリスマスやお正月のプレゼントに、絵本を考えている人もいるかもしれません。贈る相手を想像しながら1冊を選ぶ時間は、贈り主にとっても豊かな時間。その1冊を手にした方は、贈ってくださった方との素敵な思い出も胸に刻むことでしょう。

善隣館書店員とおきの一冊



雪の写真家 ベントレー

1999年 BL出版

作 ジャクリン・ブリッグズ・マーティン

絵 メアリー・アゼアリアン

訳 千葉茂樹

この物語は今から150年以上も昔、アメリカの豪雪地帯の農場に生まれ育ち、雪を愛し続けた少年ウイリーの一生をつづった伝記です。

雪の美しさに魅せられた少年は、母親からもらった古い顕微鏡で雪の結晶の観察を始めます。その美しさを、なんとかしてみんなに知ってもらいたいと、スケッチを始めます。でも雪はあっという間に溶けてしまいます。

ある日、本を読んでいて顕微鏡付きのカメラがあることを知りお母さんに相談します。お父さんは「雪なんかに夢中になってこまったものだ」と言いながらもウイリーの願いを叶えてあげたいと思っていました。

そしてウイリーは世界で一番立派なカメラを手に入れます。最初の冬は何度も何度も失敗を繰り返し、次々に写真を撮り続けますが1枚も上手く撮れません。でもウイリーは諦めず工夫を繰り返し、2度目の冬、とうとう雪の結晶を映し出したのです。

「やったー！これでみんなにも、雪がどんなに美しいか見てもらえるぞ」と。でも当時は誰も雪の写真に興味を持つ人などいなかったようです。それでも ウイリーは、いつかきっと、世界中の人が自分の写真を喜んでくれる日がくるだろうと思っていたようです。

空からひらひらと舞い降りてくる雪に魅せられ、その研究に一生を捧げた、ひたむきなウイリーに心打たれます。

雪よ、あまり降らないで！と願ってやまない私ですが(笑) この冬、ぜひてのひらで雪を受けとめて、雪の結晶をこどもたちと観察したくなる1冊ですよ。(大森紀代美)



認定こども園ひかりの子

保育教諭 大坪 桐子(おおつぼ・きりこ)

生活のリズムに慣れ、遊びや友だちの存在に気付き関わろうとしたり、友だちの反応を見たりしながらやりとりをする姿が0歳児でも見られるようになってきました。最近では真似っこ遊びの面白さに気づいて伝承遊びの「だるまさん、や「おしくまんじゅう」、絵本の中の繰り返しの表現に面白さを感じながら真似っこ遊びを喜ぶ様子が日々増えているところ。

そこで、大好きな絵本「だるまさんが、の大型絵本を使って、保育者お手製の「だるまさん帽子を被りながらの真似っこ遊びを設定しました。鏡に映った自分の姿に大喜びし、絵本を見ながら「どてっ」「にこっ」と全身を使って真似っこしている姿の楽しそうなこと!!「次は何がくるかな?」と期待を込めた表情で待つ姿、期待通りの場面が来て大笑いの姿があります。この遊びをきっかけに身体を使っての表現遊びを十分に味わいながら、繰り返しの言葉や簡単な言葉のやりとりを保育者、友だちと一緒に楽しめるようになった成長を感じながら楽しんでいきます。

一緒に楽しむ表現遊び ～だるまさんごっこ



アガベ保育園

保育士 菊池 ちひろ(きくち・ちひろ)

のりまきやさんごっこ

アガベ保育園では、「のり巻きやさんごっこ」を楽しんでいます。のり巻きのごちそうは、2歳児が手指を使って、巻くことを意識しながら上手に作りました。「いらっしやいませ〜!」「ご注文は何にしますか〜?」「おまちくださ〜い!」など、保育者・友だちと言葉を交わしながら遊びました。「かっぱ巻き」と「納豆巻き」が人気で、お買い物をした後は、みんなでごちそうを食べておうちごっこを楽しみました。

お店屋さん・お客さんの役を交代したり、1歳児が2歳児の姿を真似て、レジの店員になりきったりする姿も見られます。「袋がほしいな!」「輪ゴムがほしいな!」など、自分のやりたいことや思いを保育者に言葉で伝えて表現する力も育まれています。これからも様々な「ごっこあそび」を通して、なりきったり、言葉で表現し合ったりすることの喜び・楽しさをを共有しながら過ごしていきたいと思っています。



きらめきつうしん

各園から子どもたちや教職員の様子をお伝えします

ホールが秋の森に変身!

認定こども園青山幼稚園

保育教諭 藤田 琉梨(ふじた・るうり)



楽しみにしていた秋の散策。熊の目撃情報もあり、外での活動が難しくなっていました。そこで「ホールで秋を楽しもう!」と、異年齢交流を交えた枯れ葉遊びがスタートしました。

枯れ葉プールに飛び込むと、ホールいっばいに子ども達の笑い声が広がりました。葉を舞わせたり埋もれたり寝転んだり自然と関わり合う姿が見られました。広げた枯れ葉の中から焼き芋探しに夢中になる子どもたち。「こっちにもあった!」と喜びが溢れていました。枯れ葉を使った共同制作では、「この形かわいい!」「黄色の綺麗な葉っぱ見つけた!」と年齢を超えて一緒に製作を楽しむ姿が見られました。また、個人製作でも好きな葉っぱを選び、目を貼って顔や虫を作る姿が見られ、秋色の素敵な作品が完成しました。

外に出られなくても、みんなで工夫をするとこんなに楽しくなる。異年齢交流ならではの発見や楽しさが光った秋の1日でした。



認定こども園めぐみ遠野聖光こども園

副主幹保育教諭 田代 陽子(たしろ・ようこ)

リズム遊びって楽しいね!

色々な物に興味を持つ小さな子どもたちは、そこにある玩具に触れ、なめて、叩いて色々試して遊びます。大人が耳をふさぎたくなるような音を奏でても、楽しそうに鳴らしています。泣いていた子どもは、大好きなアンパンマンの手遊び歌が聞こえると自然に笑顔になり、手作り楽器を鳴らしながら曲に合わせて身体を揺らし、もう気分は音楽家。友だちが鳴らした音を聞いているうちに楽しくなり一緒に叩きはじめると、ドンドン♪シャンシャン♪すてきな音楽会が始まります。

最近では、スマホやタブレットの動画を観て音楽を楽しむ子どもたちも多いのですが、手遊びやリズム遊びを通して、人と直接触れ合う事や関わり合う事で安心し、「遊びながら学ぶ楽しさ」を感じられるよう、これからも子どもたちと共に、音楽を奏でていきたいと思っています。



認定こども園宮古ひかり

主幹保育教諭 清川 和子(きよかわ・かずこ)

10月の末に渋柿が届きました。宮古ひかりの干し柿づくりは職員が皮をむいてバーベキュー用の串に刺して玄関ホールにつるします。秋の風物詩となっています。柿の皮むきをしていると「これ何?」「どうするの?」

「食べれるの?」と子ども達は興味津々に質問攻めに合います。2階からぶら下げた柿のカーテンを見て歓声を上げていました。それから毎日柿の様子を見て「少し黒くなってしぼんできたね」「いつ食べれるの」と観察しながら食べる日を楽しみにしていました。

いい色味になってきたので職員が一つ取って出来具合を確認するために食べました。すると次の日一つ無くなっている事に気づいた子が「一つ無くなっている。先生食べたでしょ」と騒ぎはじめました。毎日ちゃんと見て楽しみにしていたんですね。11月初旬に出来上がった干し柿を食べました。「中がトロっとして美味しいね」と友だちと顔を見合わせ秋の味を楽しみました。

おいしい秋 見つけた!



家庭的保育事業ぶどうのき

園長 佐々木 妙子(ささき・たえこ)

ひかり・かげ・いろあそび

一段と寒さが厳しくなってきました。子どもたちは、寒さの中の暖かい日差しを受けながら毎日お散歩を楽しんでいます。かぼちゃおぼけ作り、収穫感謝礼拝、アドヴェント礼拝と神さまに感謝しながらクリスマスが来ることを待ち望んでいます。

夏の時期、絵の具遊びやプール遊びをしながら子どもたちが、水の影や窓際の朝顔のつる等の影が天井や壁に映っているのを見つけました。更に興味を持てるようにと、セロファン紙と厚紙でステンドグラス風に作って窓に貼ってみました。子どもたちはテーブルや床にたくさん色が映っているのを見て「みて、みて、きれい!」「ピンク、黄色」等言いながら今でも手をかざしてみたり、色踏みをして遊んでいます。朝顔の種が影で映ると虫のように見えて大騒ぎしています。何でも遊びにになってしまう子どもの柔軟な力に驚きます。

お知らせです。NPO法人みやっこベースの「みやっこ」にぶどうのきが紹介されていますのでよろしかったらこちらをご覧ください。



認定こども園のぞみこども園

保育教諭 熊原 有紀(くまはら・ゆき)

どんぐり拾い



岩手大学の工学部へ、どんぐり拾いに行きました。遠い場所だったので早めに出発!道中良い木陰を見つけたので、石段に座って朝のおやつタイムにしました。いつもと違う雰囲気にもキョロキョロしつつ、きちんと座っておやつを食べ、ピクニック気分を味わったはと組さんです♪

どんぐりの数は少なかったですが、子どもたちは大喜び♡夢中でどんぐりを探し始めました。自分の鞆に入れたり、手に持って歩いたり、先生に隠れてなめようとしてみたり…それぞれの反応を見せてくれました。自然に触れることが大好きな子どもたち。今後も身の回りの自然を感じて、触れて、楽しめるような活動を提供していきたいと思います。



のぞみ学童保育クラブ

放課後児童支援員 遠藤 百合(えんどう・ゆり)

お庭でピクニック

先日、授業参観日の振替休日に学童のお庭でピクニックを楽しみました。お天気は気持ちの良い秋晴れ。ピクニックのために、スーパーへ歩いて行き、一人ひとり好きなジュースを買ってきました。長い距離もお昼のピクニックを楽しみに頑張って歩きました。学童に着くとお弁当やお菓子、ジュースを持ち寄ってお庭で大集合。今年、学童のお庭に敷いたふかふかの人工芝の上、空の下で学童の仲間たちと楽しいひと時を過ごしました。終始、子どもたちの笑顔が溢れた学童の庭。子どもたちからは、「またやりたい!」とリクエストの声も。春になったらまた…



きたくり保育園

主任保育士 高橋 絵里子(たかはし・えりこ)



クリスマスは何の日？

11月18日、きたくり保育園で館坂橋教会教会員の小田島淳子さん、晶幸さんご夫妻による「バイブルストーリーテリング」が行われました。いつもかわいなお人形を使いながら子どもたちの心を引き付けてくださいます。今回は人形劇で「聖誕劇」を見せていただきましたが「世界で初めてのクリスマスはイエス様のお誕生日」だということを初めて知った子もいたと思います。

終了後は人形と握手させていただき、小田島さんご夫妻と触れ合いの時間も持つことができました。子どもたちの嬉しそうな表情を見ながら、今年も子どもたちとクリスマスを迎えられる喜びを感じる素敵な時間になりました。



学園の教育・保育施設は2025年12月現在、認定こども園5施設、小規模保育所2施設、家庭的保育事業所1施設、保育所1施設です。他に学童保育クラブ1施設、フリースクール1施設を運営しています。キリスト教保育を柱に各園が連携し、地域の子育て世帯のよりどころとしての働きを目指しています。未就園児の親子等を対象にした子育て支援事業にも取り組んでいます。日程は、各園へお気軽にお問い合わせください。

●認定こども園青山幼稚園(園長 大原 敬)

(保育機能施設すみれ)
盛岡市青山3-6-27
電話019-647-0223

●認定こども園めぐみ遠野聖光こども園

(園長 菊池千咲)
遠野市中央通り3-10
電話0198-62-2150

●認定こども園ひかりの子(園長 張仁恵)

(フリースクールこという)
紫波町日詰字下丸森130
電話019-672-2542

●認定こども園のぞみこども園(園長 川崎なおみ)

(のぞみ学童保育クラブ)
盛岡市館向町21-7
電話019-624-5651

●認定こども園宮古ひかり(園長 森分和基)

宮古市西町3-3-26
電話0193-62-6845

●上堂ホサナ保育園(園長 千葉真理子)

盛岡市上堂1-4-10
電話019-656-0235

●アガベ保育園(園長 及川理恵)

紫波町日詰字郡山駅184-1
電話019-613-2635

●ぶどうのき(園長 佐々木妙子)

宮古市山口3丁目2-23
電話0193-65-6283

●きたくり保育園(園長 前田直子)

盛岡市厨川1-7-1
電話019-641-4330

上堂ホサナ保育園

保育士 工藤 菜々江(くどう・ななえ)



日ごろの感謝を込めて

上堂ホサナ保育園では、毎年「勤労感謝の日」に合わせてクラスごとにプレゼントを作ります。今年、2歳児ころば組は、日頃からお世話になっている「ダスキンさん」「菜香居さん」へプレゼントを作り渡しに行きました。

子どもたちは、ちょっぴり緊張しながら「いつもありがとうございます！」とお礼を伝えました。「一生懸命作ってくれたんだね」「かわいいね」「ありがとう」と声をかけていただくと一気に表情が明るくなり、ニコニコする子どもたち。その姿を側で見守ると、園内での活動だけでなく地域の方々との交流によって、子どもたちの体験や経験も増え、また一つ成長できるのだと改めて感じました。これからも、地域の方々に見守られ、支えられていることに感謝をしながら子どもたちと過ごしていきたいと思っています。

フリースクールこという

ひかりの子 フリースクール係

小野 香織(おの・かおり)

フリースクールこというには、3匹のマスコットがいます。名前は、「トム」「ちみ」、そして「ダバダボン」です。日々のちょっとしたお絵描きの中から自然に生まれました。

この3匹ができあがっていく過程は、大変面白いものでした。どんな形をしていてどんな色なのか。どこからきたのか。仲間はあるのか。声や性格。どんどん形作られ、現在のこというでの生活に欠かせない存在になりました。3匹を主人公にしたお話も作りました。毎週話し合っている予定ボードにも必ず描かれています。

そんなとききっかけをいただき、3匹のぬいぐるみを作ることになりました。本当にできるのか半信半疑で作り始めました。ミシンをかけたこともないし、針を触ったこともありません。型紙を作るのも初めてです。ミシンをお借りし、教えていただきながら一生懸命取り組みました。そして、ついに完成。絵が形になり、抱きしめることができる喜びは大変大きなものでした。感動しました。

「初めはできないと思っていた。ミシンが楽しかった。縫うのを頑張ったのでほめてほしい」「最初できないと思ったが、やってみたら面白かった。できたときはかわいいなと思った」と感想を言い合いました。そしてかくれんぼや鬼ごっこをして遊びました。新しいことに挑戦させてくださった神さまの恵みに感謝します。

挑戦する恵み



アガペ保育園 定員を12人に変更 きたくり保育園 4月からこども園に

岩手キリスト教学園第143回理事会、127回評議員会が9月26日、館坂橋教会で開かれました。理事会では青山幼稚園、宮古ひかり、アガペ保育園の利用定員の変更や、きたくり保育園の認定こども園移行等に対応する寄附行為の一部変更など5議案について審議し可決しました。

利用定員の変更は、地域の保育需要や保育の質を確保する上で適正な教職員数等を考慮した結果です。自治体と協議し必要書類の届出を経て正式に決定されます。このうち、小規模保育所のアガペ保育園は2026年4月から現行の利用定員19人(0歳児6人、1歳児6人、2歳児7人)を12人(0歳児3人、1歳児4人、2歳児5人)に削減します。

一方、きたくり保育園(利用定員80人)は2026年4月から認定こども園に移行する予定で準備を進めています。これまでは、保育の必要な「2号認定こども(3歳児以上)」「3号認定こども(0～2歳児)」のみの受け入れでしたが、保育の必要の有無が問われない「1号認定こども(満3歳以上児)」も入園できるようになります。在園中に、保護者の働き方などが変化し、保育所の入園要件を満たせなくなったとしても引き続き在園でき、親も子ども就学まで安心して過ごせる利点があります。学園の各施設と連携を深め、保育内容の充実や子育て家庭の支援に努めていきます。

保育のあり方 見つめ直して 「自己評価」にグループワーク

認定こども園は教育・保育の質の向上を図るため、設置者が教育・保育の状況について「自己評価」を行い、その結果を公表することが義務づけられています。岩手キリスト教学園は2008年度から学園独自の自己評価、保護者アンケート、学園評価委員らが園を訪問して状況を確認し助言する「学園評価」に継続して取り組んできました。

より実効性の高いものにするため、昨年度、評価方法を見直し「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」等に掲げられている項目にそって、教職員が話し合い、自園の保育のあり方を振り返るグループワークを導入しました。現場に立つ教職員が話し合い、その結果を数字や文章でまとめていくのは手間もかかりますが、キリスト教保育の本質や子どもたちとの関わりを見つめ直すきっかけになります。今年度も「自己評価」「学園評価」に取り組みながら、保育の豊かさを追求していきます。

きらめき第14号 発行日/2025年12月15日

発行人/森分和基

編集/学校法人岩手キリスト教学園

法人本部：岩手県盛岡市上堂一丁目4番10号

TEL019 - 656 - 0237 FAX019 - 656 - 8672

郵便振替：02270 - 2 - 129076

名義：学校法人岩手キリスト教学園

2025年度の園児・職員数（12月現在）

	園 名	3歳未満	3歳以上	合計	教職員
認定こども園	青 山	11	58	69	21
	遠 野	28	47	75	26
	ひかりの子	43	102	145	36
	の ぞ み	31	81	112	39
	宮古ひかり	34	73	107	33
小規模保育所	ホ サ ナ	14	0	14	9
	ア ガ ペ	14	0	14	6
家庭的保育	ぶどうのき	4	0	4	4
保育所	き た く り	39	41	80	25
合計		218	402	620	199

※のぞみ学童・在籍者36人、フリースクールこいろ・在籍者2人

※きたくり職員1人が、のぞみ学童支援員兼任(教職員実人数198人)

※法人本部職員は青山に2人、きたくりに1人、のぞみに1人が所属(善隣館書店出向1人を含む)

※満3歳児は3歳未満に数えています

編集後記

急激に寒くなり、普段から歩くことさえ嫌いな私は、ますます家にこもりがち。身体もムクムクと大きく成長しています。「チャッピー」(チャットGPT)になんで太ったのか聞いてみたところ「毎日3000歩しか歩いていないのにカロリーは取っているのだから当たり前」と突き放されてしまいました。そこで、家の中で歩数を稼ごうと思い立ち、お料理をしながら足踏み(手元が危ないですが)、歯磨きをしながら足踏みと、とにかく足踏みをしていましたら、6000歩以上稼ぐことができ、体重が若干減りました。家族には不審な目で見られますが冬の時期、おすすめです。(小)

「パーソンセンタード」(本人中心)という言葉をご存じですか？知的障がいや精神障がいなどがあり自分の意思を周りに伝えにくい人たちがいます。本当は何か好きで、どんなことをしたいと望んでいるのでしょうか。本人の強みや興味関心に寄り添い、自己決定や自己選択、意思決定を支える「本人中心」の障がい者支援のあり方が真剣に議論されています。福祉関係者が集うフォーラムに参加し、学びを深めました。

実際の現場では簡単なことではないのかもしれませんが。しかし、障がい者本人の希望や目標を知り、共に歩む支援のあり方はクリエイティブで、障がい者も支援者も幸せになる福祉の方向性を示しています。保育にも通ずる多くのヒントをいただきました。(恵)

表紙の写真：認定こども園ひかりの子の年中組(ひまわり組)の園児たちが12月3日、紫波町のオガールでイエス・キリスト聖誕の喜びを伝えるキャロリングを行いました。サンタさんと同じ赤い衣装を身につけ讃美歌やクリスマスソングを歌いながら行進。情報交流館では、保護者やまちの人たちの前で、素敵な歌声を響かせました。園児たちが手作りのリースやオーナメントのプレゼントもあり、会場いっぱい「メリークリスマス！」「ありがとう！」の声と笑顔があふれました。神さまの豊かな恵みがありますように！